
パソコンのゴミ箱2(携帯からも読めるよ)

敬愛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

パソコンのゴミ箱2（携帯からも読めるよ）

【Nコード】

N95230

【作者名】

敬愛

【あらすじ】

帰って参りました。腐れ詩人の敬愛によるパソコンのゴミ箱。

内容は明るい詩、暗い詩、意味不明な詩のミルフィーユ。押韻やダブルミーニングに異常にこだわっています。

完結しました！今作品はアクセスが伸び悩みモチベーションを維持するのが難しかったです。次回作あるかわかりませんが少し休みます。で、たいしてする事も無く暇なので

2ヶ月も経たない内に3を連載中。

ドラマ（前書き）

ここから第四話くらいまでたぶん心が病んでたんだと思う。笑
というか精神病だからしょうがないか・・・。

ドラマ

産まれ出会い 産まれ出会い
死に別れ 死に別れ

ドラマは初回視聴率は高く
最終回には尻すぼみ

いやそれはちやほやされるか
どうかという基準の話で
決して人が死ぬという事に
注目が集まらないという事ではない

むしろ人それぞれ
ドラマの主人公であり
人生も例えてみれば
連続ドラマのように山あり谷あり

僕はそのドラマの構成員では
もはやないから
高見の見物
生きながら死んでいるような顔をして

ただ見物するなら
素敵な物 醜悪な物
善悪問わず

強度の強い物が見たいわけで
案外みんなそうかも
TVドラマなんて

子供だましの恋愛見世物だと
僕は思うけど

ついつい面白くて

はまっちゃう事もある

人生も我ら平凡党とでも名付ければいいのか
しかしながらそれなりに波乱万丈

そういう物に興味を持ちたいと思いつながらも
曇り硝子のように何だか自分の事さえ

心許無く

足掻く もがく

そうやってる内に偉い人と駄目な人が
振り分けられ

僕はさつきも書いたように高みの見物なのだから
と思っていたらいつの間にか駄目な人というレッテルを張られていた

じゃあ偉くなりたいよ

と偉い人は子供の頃から努力している

僕はただアホ面して呆然としていたのかもしれない
まあ人から聞いた話だからあてにならない

始発駅から終着駅まで

どんな形でもお疲れ様

お互い様さ 人という字の成り立ちは
正確には知らないけど

大事にしたいものだよね
出会いとか別れとか

初めまして さようなら

その間に非常食の乾パンみたいにパンパンに

ドラマが詰まっているのさ

終わったりまた始まったりして

そういう事の繰り返しで過ぎ去っていく人生

ただ光陰矢のごとし 法院やり過ごし

もしかしたら争う事も無く

ただ微笑をたたえ

じつと正座して

事の成り行きを見守る

そっけんののが仏陀のやりたかったことなのかなあ

綺麗な池の綺麗な蓮の葉の上でさ

ドラマなんて無く説く

そんな生き方誰も真似できないから凄いだろっね

僕達人間は

今日を生き抜く為に

あくせくドラマ作成に余念がない

生前葬なんてのもあるくらいだから

結局終わりなんて気にしないでいいんだよ

我ら平凡党 平行棒渡るみたいに

フラフラしながら

訳もわからず気が付いたら死んでいるのさ

アニメの世界は夢なんかじゃない（前書き）

所々にアニメのタイトルのもじりが入っているので
こんなサブタイトルです。

アニメの世界は夢なんかじゃない

あきらめんな

ラーメンに入ってる

メンマみたく

固く歯ごたえのある男になれ

優柔不断

それもいいさ

でも遮断される前に

目覚めろ

遠くで鳴り響く鐘が

慰霊祭でも結婚式でも

恐れるな

君の未来は君が決めるんだ

受験勉強必死でやれよ

主導権握るんだ

どうせやるなら

トップを狙え

狙えエースを

汗を流して

しょっぱいその汁は

君の体から出て君より輝く

アニメの世界は夢なんかじゃない

死に目を見られない そんな現実もあるけど

孤独 吹っ飛ばせ

風が吹き荒れる その中で友が待っている

勇気という羽根で

悠々自適に

まるで k e n j i m i y a z a w a

銀河を翔ける

熱い血潮がエナジー

君のうなじ

たぎる 五右衛門風呂みたいに

沸かせ魂

独り暮らしのろくでなし

だっけ

違うよな

それは俺の事だった

君はそうなるな

就職活動 君の中で何かが胎動

ママは帯同してくれないよ

とにかくがむしゃら

くちやくちやガム噛んでる場合じゃない

コンビニの前でだべっていたら

その店ですら

働かせてくれないよ

気合を入れて

君愛せ 卵から飛び立つんだ

したくない事 潰しながら
みんな大人になっていくんだ

出会いもお別れもリアルに知っていく
はかない人生
知らぬことばかりだけど

怖くはないんだよ ただ綺麗な涙を守ってくれ

金持ちの末路（前書き）

僕はお金持っていないんですけどねえ。

時々あの富豪が？っていう人が自殺しちゃう事あるから。

金持ちの末路

ハイに灰にしてい
フラッシュ ヴァニッシュ
パンキッシュ フィニッシュ
そんな快楽 全てアッシュ

俺のやることなすこと
全てが欲望のなすまま
よくそう続くよな

金で出来た浴槽で銀座のママとお喋り

いつもパニくってるくせに
中華料理屋で
高級力二食ってる
平然とした顔で

一体どうしたら
濡れ手に粟なのか
教えてあげない
濡れたホームレスなんか

こっそりだよ
ずるく生きることさ
自分が嫌になる位

他人を蹴落としても嫌にならない位

神様の罰なんて気にしちや駄目さ
生き馬の目を抜くような世界

そんな生き方が正解
金にまみれた政界

頂点に登りつめて

もうこれ以上登るところなんて

ないって思い上がって

エレベーターは九十九階の隠れハーレムに昇って

御のぼりさん

なんか全てが嫌になって

三つ子の魂百まで

本来貧乏性

だから思い上がるな

って婆ちゃんはいつも言ってた

福沢がばらまかれた部屋で

男独りくびれていた

悲しいね

みんな言う 良い人だったね

次の「都合の良い人」を見つける準備してるくせに
誰も本気でなんか泣いてくれないさ

蜘蛛を殺したんだ（前書き）

あれゝ。夜蜘蛛って親戚の生まれ変わりだから殺すなって言いますよね？

そもそも夜に蜘蛛が現れる事ってあんまりないけど・・・。

蜘蛛を殺したんだ

怖さを知るたび強くなっていく
君子危うきに近寄らず？

火中の栗を拾う！
あゝややこしい

世の中名言数あれど
稀少な名剣は握らせてはくれない
賢明な判断
絡みつく糸をカッターで切断

蜘蛛を蜘蛛を殺したんだ
夜蜘蛛は殺すな
どんよりとした厚い雲の夜
僕はもやもやしていた

雷が落ちる
神になり堕ちる
ギターの轟音が鳴り響く
霰が降る

恐怖を知るたび強くなっていく
人間万事塞翁が馬
案ずるより産むが易し
トイレに行きたい

酷い血便だった
僕は死を覚悟した

括弧助かりたい
心の声

蜘蛛を蜘蛛を殺したんだ
親戚の生まれ変りを
だからバチが当たったんだ
おーライオンの怪音

テレビをつける
砂嵐 ザーザー
雨が降っているのか？
基準値を教えてください

恐怖の記憶なんていら
楽しい事ばかりしていた
さっき使ったカッターで
手首を切った

ああ、温かい
凍えるようなこの世界で
静寂に優しく殺されるこの世界で
この血液は潔癖

手を洗え 手を洗え
傷跡に沁みるその痛みは
ぞんざいに言えば存在
だから黴菌が侵食してくる

在りし日の思い出を
誰かの記憶の中に刻めるように

まるで蜘蛛が自らの家を作り上げるようにせつせと

まるで空が恥じらい雨雲にお隠れになってしまつように密かに

しかし悲しい事に自然界の脅威の前に

震えるしかないのか

何故ならば僕は蝶

蜘蛛の巣に届く 雲に届かない

ならば記憶を共有しよう

思考伝播

それを輪廻転生と言う

診断 判断 決断 一刀両断 それでも終わりは来ない

l i s t e n i n g p o p m u s i c (前書き)

あつさり系ポエムもたまに書くんですよ。あんまり韻踏みにこだわると読者も飽きちゃうからね。

l i s t e n i n g p o p m u s i c

l i s t e n i n g p o p m u s i c

軽やかにステップを踏んで

心地良く踊りだそう

さあ始まるよ

口笛を吹いて

小鳥とハミング

素晴らしい朝だ

大きく背伸びをしてみる

隣りには太陽より眩しい

君の笑顔

いつもの通学路も

今日はキラキラ輝いて見える

闊歩 闊歩

まるで馬にでも乗ってるみたいさ

大草原駆ける

モンゴル民族みたいに

l i s t e n i n g p o p m u s i c

風でスカート舞い上がる

僕も舞い上がる

踊りましょう 二人で

音楽を聴かない人間を信用するな
シェークスピアが言ったけど

今ならば言える

こんな気持ちの良いもの他にはないって

今日は学校すっぱかして

あの公園まで行こうよ

二人が初めて手を繋いだ

あの公園へ

貴方に贈れる物は

僕の好きな曲と花くらいしかないけど

聴いて欲しいんだ リズムを

嗅いで欲しいんだ 香りを

l i s t e n i n g p o p m u s i c

君が涙に暮れるとき

ワイパーみたいに

両手で拭ってあげたいんだ

そしていつか君に

とびきりの夢を見せたい

僕がミュージシャンになって

君の事を歌うんだ

その時二人愛の意味を知るために

急な階段を登ってる

君が息切れしたらゆっくり休もう

大人への階段は簡単じゃないから

名も無き花が風に揺れてる

二人で名前を付けよう

君のポニーテールも風に揺れてる

誰も座っていないブランコの椅子の様に

l i s t e n i n g p o p m u s i c

ありがとう

この星には歌が溢れてる

耳から零れ落ちそうにいつの間にか口ずさんでる

夢（前書き）

このしはきたちようせんでさくせいされました。
だからせいがひくいです。

釧路には住んでないのでそこらへんの描写も合ってたんだか間違ってたんだか。

夢

一体全体

見渡せない

霧の釧路湿原

一对のタンチョウ

テントの中で

御天道様を拝む

凍死しそうに凍りつく

寝袋

御袋の夢を見た

正確には見ていた

夢の中で貰った巾着袋には

チョコレートが詰まっていた

チョコレートを一口

食べると眠く

チョコレートを二口

食べると眠る

夢の中の夢の続きは僕が母の乳房に抱かれ

乳首に吸い付いてる

そんな赤ちゃんの頃の

記憶 清く

懐かしく涙すれば

目が覚めてもまたしかり

現実と夢とは

かくも強く繋がっている

誰もが二つの世界を

毎日行ったり来たりしながら

悪夢に悶え

良夢に浮き立つ

ヤッホーのマホー（前書き）

比較的自信の1作です。（中盤でグダグダになるけど。）

月がラッキーワードみたいなので。

あーストックがもう殆ど無い・・・。

ヤッホーのマホー

ヤッホー（ヤッホー）

君もやってみなよ

山彦 気持ちいいよ

ヤッホー（・・・）

ははは

山に嫌われてるんだね

君はプクっと

ふくれる

その顔が餌を口の中に蓄えた

リスみたいで

僕は笑った

カワイイな 心から思った

海で夕陽に向かって走ってみた

ヤッホー 君もやってみなよ

ヤッホー（・・・）君は海藻に足を取られて転んだ
Tシャツが透けてるよ

君はプクっと

ふくれる 「見ないで」

頬の膨らみが胸の膨らみ具合と

相似していて愛に実に誠実に君に

恥じらいという

男としての最高の屈辱を

受け入れるという
服従の姿勢で迎え入れた

胸の中に 胸の中に
ドキドキが時々
君に伝わってやしないか
心配と期待が入り混じっていた

二人すぐ離れ
友達距離に戻る
そう五十センチくらいかな
夕陽に照らされているせいだよ

僕は言った
頬が赤いのは
君の赤いチノパンが
ぴったり肌にくっついていた

冷静に努めて
努めるって漢字って
なんとなくHだよなあ
なんて思っていた

母なる海 月をその肢体に映し
美しく光りながらくすんでいる
日本海独特のその色を見て
二人一緒に海に溶けてなくなってしまうたい

そんな衝動に駆られて
君に「月が綺麗だね」と言ったら

ヤッホーと月に向かって君は言った

ナンセンスだと笑いながら君が好きな事に僕は気付いた

ヤッホーのマホーだよ

君は髪をかき上げて

月に向かって指で四角形を作り捉えた後

振り向いて僕の唇にそっと口づけた

どうして（前書き）

前半は若い人達に向けたメッセージです。

ドラッグはやる物じゃないですね。友達が葉っぱキメて気持ち良さそうにしてたのでアンチテーゼです。孤独っていうのがテーマですね。

いっつもそうだけど。

どうして

どうして僕はっかり
そう思っている間は
君の背中の荷物は
重くなるばかり

自分で集めた
パンパンに詰めた
宝物だった筈だろ
ガラクタにかえてしまったのは君なんだよ

どうして幸せ者と不幸せ者がいるんだろう
そう考えている間は
君の頭の中は
温まるばかり

冷静になれよ
暴れてもいい
でもそれは一時にしときなよ
他人を傷つけてもそれは一時しのぎ

あゝ楽しい事無いかななんてさ
あゝ優しい人居ないかななんてさ
自分で探さなきゃ
苦しい？そうだよ苦々しくとも

誰もが一人で歩いていく
そんな時可愛い女の子が居てくれれば

慰めになるなんて

世迷い事言う己ごと燃やし尽くせ

気分が良かったり

悪かったりするけれど

自分という存在を消化して

頑張って昇華させるんだよ

誰かの事を大切にして

例えその人が哀れむ価値さえ無い人間だとしても

汝の隣人を愛せと

月桂冠がそれは勝ちなんだよ もがきなよって伝えてる

ドラッグに逃げるなんて馬鹿なマネはするな

そんな奴はトラックに轢かれる

転落人生

それでもいいけど後悔はするなよ 自分だけの航海

荒波を越えて

竜巻に耐えて

地震 雷 火事 親父

昭和に生まれて平静に死ねるだろうかね？

我はチャレンジャー

夢を追いかけて

敗れては継ぎ接ぎし

また立ち上がる

我はチャレンジャー

我慢が肝心

感心するほど

辛抱 苦汁を飲まされ

それでも吐き出す事は無く

パイオニア目指し

新たな言葉を紡ぎ

木の葉が散るのを見て

何か感じないかと己に問い掛ける

一つ一つのkeyの音

キーボードに叩き込み

尻込みする事無く

意気込みを表明

実の所季節の移り変わりなどには

目もくれず

ただひたすらひたむきに

時たまボキャブラリー探しにライブラリーへ

ライムを届けたくても

へこへこアイムソーリー

挨拶代わり 身につき

もう五ヶ月 飯炊き 我はチャレンジャー

ぐちぐち ねちねち

愚痴を言われ

家出しようと計画するも

泊めてくれそうな友達も無し

超変な挑戦

5年使ってる花の咲いた歯ブラシ武器に虫歯と戦い

まるでモンスター

サンスターの歯磨き粉で撃退

愛無き囁き合いに辟易

深夜ひそひそ

あくまで友達の女の子にメールを送信

浮気だとそう信じてる妻に見つかり

引つ叩かれ お許しあれ

詩人になりたいんだ

え、死人でしょ

売れない詩書いてる人なんて

誰も認めてくれない

僕自信の言葉を

僕自身もあまり関心がない

賞が取れるかなんて

始祖始祖呪詛のように唱え

今日も絶好調に絶交

絶頂なんてありやせんて
今日も絶好調に絶唱

音楽界では

No1かNo1にならなくてもいいか
論争の紛争 正直どちらも興味がないが
世界に一つだけの花なんて奇麗事

ちょっとした喜びで良い

お話だけでも聞いて頂けませんか
クリスチャンの訪問者を

疫病神みたいに追い払っているくせに

ガチで教会でも行こうかな

誰か紹介して え、照会が必要？

時代も進歩したもんだね

指紋かい？角膜かい？

そうか家は浄土真宗だった

キリストの写真も躊躇いもなく踏める

僕らは仲間ではないんだ

聖書すら読んだ事が無い

何でも体験しないとわからない

青年期には法事を避けて放蕩してたらしいよ
記憶に無いけど

だって信仰なんてつい最近知ったんだもん

夢を追いかけて

ハイネの詩集に感銘を受けて

たくさん書いたけど
全部鼻紙にして捨てちゃった

だって自分で読んでも面白くなかったから
そして月日が過ぎ 街のカラーも様変わりし
今は詩が自分の子供の様に
可愛い

我はチャレンジャー
今まであくせく汗を流して働いてきたんだから
自分の好きな事に挑戦してもいいだろ
誰が何と言おうとも

つまらない世界に
溺んだ世界に
弾丸をぶち込む
詩人は言葉を新しくする

新陳代謝 新人膾炙
脳の中の膿を出し切るまで
表現への挑戦
我は証言する 証明する

詩はまだ死んじやいない
イキイキと息をする
鼓動が初期衝動を突き動かす
死界に風を吹かせる

我はチャレンジャー（後書き）

決意表明したところで

ネタ切れ起こしたのと、あまりに人気無いので失敗作と判断し、しばらく完結済みに。

クリスマスイブあたりに一篇投稿できるかな。

イカロス（前書き）

昔ギリシャのイカロスは、

イカロス

不安を数え上げたら

キリが無い

僕たちは飛べない

きっとイカロスみたいには

彼は勇敢だったのか

馬鹿だったのか

それは分からないけれども

必死だったのは分かる

何か新しい事

今まで誰も試した事が無い事

手垢が付いていない

未知の領域

そこに手を伸ばす時

僕たちは一度燃え尽きる

業火によって

そして不死鳥の様に蘇る

黄泉の国から

聞こえる亡者達の声

振り向いてはいけない

甘言に騙されてはいけない

僕らは僕らのための

自由を獲得する為に闘う

時に敗者達はあまりにも残酷な報復をする
血が流れる

平和なんて僕らの視界のど真ん中にしかない
まっすぐに見つめるその視線は
周りを見えなくしたりして
目眩を起こさせたりする

テレポーテーションの扉は
まるで僕たちの生きている瞬間を
自由自在に 過ちという名の
血の池地獄にぶち込みコンマ一秒を寸断する

教えられた事と世界の理は
違いすぎて戸惑う
本当に真実というのは
目を背けたくなるような惨劇

だから僕達は時々空を見上げたりなんかして思う
ビルディングの隙間から僅かに覗く
あの青空の澄んでいる事といたら
塵一つ無い 染み込んで行くスーッと心の中に

非常に馬鹿馬鹿しい日常
悔しい涙を流す事もある
僕達はどうしてもない夢なんかとは無縁で
勇者にはなれない でも

太陽に向かって手を伸ばせよ
イカロスも憧れたんだろ

希望一つをポケットにしまい込んで
太陽に向かって手を伸ばせよ

本当にたった一つしかない

太陽の熱を感じたい

光り輝くあの星に手が届くように

イカロスは決死の覚悟で飛び立ったんだ

真夜中（前書き）

ニトラフルゼパム、ベノジールカプセル、ジプレキサ、デパス、
こ
んだけ飲んでもまだ夜中に目が覚める。

真夜中

書き出せない

描き出せない

真夜中

一人パソコンに向かって

僕は考えている

何者にもなれない

将来が見えない

そんな世界とおさらばしたい

自らの空っぽの頭で

時折思考が停止しそうになって

はっと気付く

この瞬間二度と戻らない

二人と居ない自分という存在

もっと大事にしてみたい

しかし僕はいつも周りのせいにして

責任さえとれない

でもそれでも良いんじゃないか

生まれてきて生きている

それで百点満点だよって

誰か言ってくれないか

暗い闇の中で集中

モニターの光だけは眩しくて

気持ち良い朝を迎えられなかった
僕の神経は擦り切れそうだ

タバコに火を付けて

灰皿は仕事の進まないエディターみたいにいつぱいで
イライラを象徴してるかのような

乱暴に揉み消す 吸殻から紫の毒素が立ち上る

色は静かに

移り変わっていき

天気のように気まぐれで

それでいて季節は確かに巡ってる

真っ白な部屋

真っ青な部屋

真っ赤な部屋

どの部屋にいても心は真っ黒な色

僕の世界は

統合が困難で

こんなんで生きていけるのか

甚だ疑問

五歳くらいの幼児の力しか持たないくせに

二十歳前からタバコと酒を覚え

墮落した人間 破天荒に悪行

手の施しようが無い

ゲームみたいにリセットできたなら

僕はこの場所には戻りたくない

したくない 灰にしたくない
だからもう少しまともな人間に生まれたかった

でももう生きていたくないだの
生まれてこなきゃ良かったなんて
弱音を吐いて人の同情を買うのも
どうしようなんて迷うのも

全部止めにする

一本道 ペンペン草さえ

死に絶える

地獄への道を歩む

老化だろうか

まるでまるで

杖をついて歩いている御爺様

もう近いのかな 受け入れているさ

駄目人間 駄目人間

抜け出せるか

それには「こころ」が必要なんだが
持ち合わせが無い

苛めてくれ

イエスマンとして生きていくしか
方法はないんだから

為す術がないんだから

そんな事を思いながら
パソコンの電源を切る

さあ朝が来た 自分スイッチをオンにして
出かけよう 詩の卵を探しに

涙・月・雲・風・星・雨（前書き）

まいまい@ノ・先生に贈った詩をちょっといじくって投稿。
今までと全く違うスタイルになりました。
久々です。どちらかと言うところいう詩を書いていきたい
のですがなかなか難しいものです。

涙・月・雲・風・星・雨

涙は流星のように 君は新生の喜び 母なる月のほころび

見上げて思う 遠く遠く光る貴方は しがらみ突き抜けて

笑う 雲が流れて暁 眠れない夜に君思えば恐怖も不安も

風に流されて消える 夢は叶うよと言ってくれた君を両手

で包み込むように 雨は静かにしとしと降る

はるか彼方星々 僕らの生まれる数百年前から光り続け地球に届く

それはまるで宇宙の無限の理 死にゆく星々 生まれ出ずる星々

涙は流星のように 僕は実存の苦しさ 母なる海の静けさ

身を沈め思う 深く深く潜る僕は 大切な何かを見つけ

笑う 雲が流れて夕暮れ 生き急ぐ毎日 開かれた扉に飛び込み

風に流されて飛べる 夢を叶えると誓った僕を両手

で包み込むように 雨は静かにしとしと降る

笑顔ボタン（前書き）

笑う角には福来る。

笑顔バトン

いつも笑顔で

おはよう

こんにちは

こんばんは

いつもハキハキ

心ウキウキ

元気 勇気

貰おう 与えよう

みんな手を挙げて

横断歩道を渡るんだ

大人も子供も

笑われたっていいじゃないか

芸人じゃないんだから

笑わせるなんてポリシー

持たなくたって

クラス一番の人気者にくらいはなれるさ

馬鹿になって

全部笑い飛ばそう

僕達みんなお母さんの

秘密の場所から産まれたんだぜ

おかしいだろ

みんなの共通項

呼応する 今日通じ合う
さあ大きく口を開けて

笑顔バトン

繋げていこう

地球という星は今危機に立たされている
機器によつて 鬼気によつて

笑えない子供達が多すぎる

戦争とか飢餓とか病気とか

だから大人も笑えない

笑顔を作るのは容易いようで難しい

疲れたときに一杯のホットコーヒー

学校から帰ったときに三時のおやつ

へこんだときに一言大丈夫

そんな時ほつと一息 笑顔が自然とこぼれる

大事にしよう

みんなが笑顔になれる方法考えよう

それにはまず君自身が笑う事さ

鏡の前に立って

小さくとも良い 大きくても良い

歯を出して

それは醜くたつていいのさ

君が笑えば相手も笑う そうできてる

笑顔バトン繋いでいこう

隣りの国にもその隣りの国にも

船でも飛行機でもいいさ
行ってみよう 見てもよう

万国共通の魔法

ハンムラビ法典にも書かれていたよ

目には目を 歯には歯を

笑顔には笑顔を

思い出のクリスマスイブ（前書き）

例のごとく実体験では全くない・・・。

思い出のクリスマスイブ

しんしんと積もる雪

今年も冬がやってきた

手の平に乗せるとすぐに消えてなくなる

儂さ 脆さ 危うさ そうさ

僕の左隣には

君はもういない

乱暴なドライバーの水はねから

君を守る必要も無い

今宵去年の冬を思い出していた

クリスマスイブ

二人で飾りつけたツリー

今年は心なしかオードブルも冷たい

風が吹き抜ける心の隙間の穴

どう埋めればいいの？

寒くて凍えそうだ

ただ君の温もりを思い出して

一人きりクリスマスケーキの蝋燭に火を灯して

全部は食べきれないから半分残して

ふと君が帰ってきてくれやしないかなんて

期待している僕がいる

去年は大好きだったクリスマスソングも

今年はなんだか虚しい

君一人 それだけで良かった
誰よりも大きな存在だったと思い知った

胸が締め付けられる

こんなにも苦しいなら

君のあの時の言葉

理解してあげれば良かった

「二人でいるのに一人みたい」

そう言っただ

僕は知ったかぶりして

パートナーってそういうものだよって言っただけ

別れのクレパス

陥っていた事

僕は気付かなかった

君の声微かに震えていたのに

あの時何も言わず抱きしめてあげたら

そうだったんだ

君はあの時今の僕と同じ気持ちだったんだ

夏なのに凍えそうに縮こまっていたんだ

僕の右隣には君はもういない

宙ぶらりんの右手でベットの枕を抱き寄せる

情けないけど今夜はこのまま眠らせてくれ

TVを観る気力もないから

愛してたのに君はもういない

今夜は眠らせてくれ 誰とも会いたくない

ケータイをバイブにして明日も会社だ
親愛なる君だけへ 会いたい

思い出のクリスマスイブ（後書き）

メリクリ〜！ず〜っとず〜っと側にいて〜。

フリースタイル（前書き）

KARAと少女時代がネタ。

フリースタイル

人生が永遠だったら

これほどまでに焦らないだろう

僕という人間が完成されるまで

時間はあまりない・・・なんてカッコつけてる場合じゃない

リミッタ・解除して無限ループ

全力疾走でランナースハイ

ハードワーキング手に入れるプラチナ&ゴールド

スーパーモンスターカー飛ばせマックススピード

もう立ち止まってられない

はしゃげ 毎日特売セール

飼い馴らせ 暴れ馬

暴走モード突入

人生が永遠だったら

なんてピヨピヨしてる暇あったら

ストリート制覇してみせろファイター

なんでもいいからチャンピオンになれ

言い訳ばかりで

一日一歩三日で三歩

じじいになっちまうよ

万歩進め 万歩

二十四時間与えられているのに
すやすやオネンネ

赤ちゃんかよ
徹夜で頑張れ

全部自分の為だ
誰にもメッセージ発信するな
本心 楽したいです
それでも

僕は貝になりたくない
もう黙ってらんない
傲慢な己 ぶち壊したい
満身創痍 愛だけを信じたい

強く強くジャンピン
からからがらがらで遊んでないで
お喋り上手 おしゃぶりしながら
ダメダメ あれ少女時代は？

マイソウル 幽体離脱中
ウルトラソウル 必ず爆発
愛を取り戻せ クリキンだっけ？
略すな 楽すんな

真剣に向き合え言霊
さぼるなこの馬鹿
目指すはライムスター
アイム ピヨってる

かぶらぬように細心の注意
最新の音楽をチエキラ

なんだあいつ的な周囲
気にせず今日もヘッドフォン

こいつにベッドしたい奴
いないと思うが
聞いてくれ

DJ敬愛 ソウルをゲット

人生が永遠だったら

これほどまでに焦らないだろう
詩なんか書かないだろう
きつと何もしないだろう

フリースタイル（後書き）

K・POPユニットの勢いそのままに。

教えてよ太宰先生（前書き）

畜犬談や斜陽なんかから題材をとりました。
太宰LOVE！

教えてよ太宰先生

凍てつく山に

一人取り残された
遭難だ

そうなんだ

みんな何処行つた

一人ぼっち

夢から覚めた

でも一人ぼっち

抱き枕が汗でびっしょり

アイドルの抱き枕が

濡れてる

ポスターがはがれてる

カレンダーは半年前

周りにはビールの空き缶が整然と
整列している

空き缶も怒ってる 大渋滞です

ケータイは解約され

今はアラーム代わり

10年も使っていたから

充電池もイカれてる

ああさようなら

全ての術に

僕という人間は

0と1で出来てるこんぴゅうたあ

騒然とは無縁の潮騒は幻の声

僕を呼んでいるのか？

ならばガレージのオンボロバイクを
引っ張り出してこようか

もう全てがめんどくさくて

豆腐の角に頭をぶつけて

死にたい わけじゃなく

麻婆豆腐作るんだ 腹減ったから

色々な欲があるけど

僕は比較的無欲な無職

でも右翼の街宣車うるさいから
爆破しようかななんて思ってる

白地のキャンバスに

適当に色を塗りたいくらい

葉ちゃんみたいに

地獄の馬を描く

太宰先生自殺する前に

孤独について思いを巡らしましたか？

僕は暴力団とケンカして歯を5本も折られ

今、押入れの中で蝋燭をつけて全集を読んでいます

どうなってるんだよ

こんなはずじゃない

ポンコツじゃないか
まるでインストール出来ない

ねえ教えてよ

教えてあげる君はもう駄目だ
死に至る病 絶望
本当は渴望しているのに

違いますよ太宰先生

恐水病ではありません

今は狂犬病というのです

とにかくあの病は酷いから1度なってみたい

しかし死んだらゲームオーバー

百円を投入してもコンティニュー出来ない

百年生きてもワンアッピキノコは

入手できないんです

それなのに僕ったら

まるで羞恥心も無く

僕は誰ですか？ 等と

人に聞いて周る

白痴なんです

全くもって世間一般の人が
忌み嫌う

自称ダサイスト 本性ダサイ人

子供の頃女の人達に囲まれて
カワイイ カワイイ

今では後輩に「おい河合！」
てんで意気地無し

直治は心が美しすぎたのでしょうか
ねえ太宰先生

今、陽が沈もうとしていますから
新しい蠟燭を買って来ます

嘘です

怖いのです

漠然とした不安

そんな事で芥川は死んだのかな

僕もいつか逝くのだろう

運命 どれつだ！

そんな言葉を作ったのは
頼むからいなくならないで

愛なんて大袈裟な言葉はいいから
会いに行かせてよ 会いに来てよ
彼岸の淵の船頭さんよ
一方通行の標識が立ってないよ

おせつかいけど

英霊達に敬礼したいんだ
タバコでも一本いかがですか？

失敬 失礼します 水道管が破裂したので

かくもややこしい浮世
捨てよう重い荷物は

いつその事このデカイ頭も
刈り取ってくれたなら

その前にハラキリしなきゃ
とびきり痛い事だろう
ここに居たい事だろう
残酷な漆黒の闇 それは悩み

今日目覚めて愕然とする

僕のお金が無いよ

誰が盗んだんだと被害妄想するけど

昨日の夜全部飲んでしまった事を思い出した

こんな僕ですが

どうか守って下さいと

毎朝爺ちゃんと婆ちゃんの仏壇の
水を替える

側にいて（前書き）

赤い糸のお話です。

側にいて

天使でもいい
悪魔でもいい
あくまでも君が
側に居てくれればいい

千年桜の木の下で
二人交わした約束
今も覚えているかい？
指切りげんまん

その時感じたんだ
これが赤い糸なんだって
君とはどんなに離れていても
結び付けられる運命

今日感じた事共感したいんだ
例えば霜柱を踏みつけたときに
サクサクと音がしたんだ
とても心地良い音

今日感じた事共感したいんだ
例えば氷点下の日
太陽に照らされてキラキラ輝くダイヤモンドダスト
とても心地良い光

そんなささいな事
君と話したい

学校帰りファストフード店で
ハンバーガーなんか頬張りながら

君の瞳に映る物
全て僕の瞳に
僕の瞳に映る物
全て君の瞳に

心の最果てにて
眠る人形
時々それが本物の様に
僕を惑わせるんだ

君の髪に触れたい
その艶やかな髪に
でもまだ叶わない
早く大人になりたいよ

タイムマシンがあつたら
僕は未来へ行く 君はどうだい？
天使の様な赤ちゃんの頃の小指に赤い糸がついてるか
確かめてみる？

こんな僕でいいかい
ホントはちよつと不安
運命なんて
実在するのかなと

赤い糸が切れてしまわないように
僕は君が笑うたび

小指を隠すんだ

こんな時がずっと続きますようにと

心の最果てにて

涙する人形

時々それが本物の様に

僕の目を潤ませるんだ

ずっと続く約束 結婚

でもそれだけじゃ足りないんだ

僕の心をロックして

鍵は君に預けるから

そんな事絶対ありえないけど

赤い糸が何かの拍子に切れてしまったら

僕らはそれに気付かず

添い遂げられるのだろうか？

僕の視界はいつも未来への地図

僕の視界はいつも未来への地図

君と一つになりたい

でもなれないもどかしさ

タイムマシンがあつたら

僕は今に残る事にするよ 君はどうだい？

やっぱりこの時を大切にしたいんだ

時間というギロチンに引き裂かれたくないから

メンタルヘルス（前書き）

この時期になんか暗い詩ですが、お母さんが帰って来れないので（精神科の入院病棟から）去年とは大違いな大晦日になりそうです・・。

メンタルヘルス

心がバラバラに割れて
僕という人間は壊れた

この世に僕を引き止める
材料が見当たらない

薬漬けにされて
廃人になる

自殺 ふと頭をよぎる言葉
しかし去りがたい

家族 昔は人並みの家庭だった
罪人は？ 誰のせいでもない

なんとかここまでやってこれた
しかしなんとも言えず苦しい

僕には金も地位も名誉もなかった
仕事が悪くそでたらいい回しにされた

精神保健について学んでいた筈なのに
自らの異変に気付かなかった

それが病気の特徴
思えば友達が一人去り二人去り

僕は疑問に思う事無く

一人でも良いやと自棄になっていた

夜遅くまで働いて

僅かな給金で酒を飲み

いつも自分が見えない

屋気楼の様に幸せが掴めそうで掴めない

悲しい 辛い 楽しい事見つけれない

負のオーラを身に纏って

機械みたいだと人に言われ

心が無いと人に言われ

僕はくるくる目眩がして

狂いそうに狂う

一体僕の人生って何だったんだろうか？

秘密をたくさんリュックに詰めて

軽々しく語れる物ではなかった

人からすれば重厚感が煩わしかったのだろう

何も知らない子供に戻れたら

何も知らないのだから今の僕に語る言葉もないだろう

やり直しがきかない それは

あまりにも残酷な真理

一発頭めがけて
銃弾をぶち込んで欲しい

進路を指し示すカーナビは
僕を何処に連れて行くか迷っている

僕自身が設定したのだから
何処にも行きたくないのだから

心がバラバラに割れて
僕という人間は壊れた

ラベンダーの香りがする
アロマキャンドル

それさえも幻臭の様に感じる
強迫観念で精神が休まる間もない

頼りにしていた母も再び精神科に入院した
僕のDNAは殆ど彼女と酷似している

暗い話ばかりしていてもキリがないなあ
女一人いればまた違うだろうに

言葉のサラダ（前書き）

言葉のサラダっていうのは精神分裂病の症状で言語が意味を成さずただ文字の羅列となる事なんです。確か。

言葉のサラダ

言葉を無くした

決定機を演出するキラーパス

天国への階段

泣く事は出来る

言葉のサラダ

カラーは空々だから

透明なラブストーリー

泣く事は出来る

分裂病

レッド イエロー ブルー

移り変わるシグナル

恐れる事は特に良く出来る

スタート

アクセル踏み込んで

対向車のライトが眩しい

恐れる事は特に良く出来る

僕という存在はいないのだ

正確に言えば自我が破壊されている

だから僕一人の時は誰もいないことになる

いても意味は無いのだ

僕という人間が酸素を吸って

二酸化炭素を吐き出して

たまたまたまみただけ
いても意味は無いのだ

叫び出し

包丁を構え

据わった目で

人を殺していくあいつ

お金が無いから

誰も相手にしてくれないから

あいつは偉いから

人を殺していく　それが正しいと思ってるあいつ

うんざりなのは繰り返される世界

うんざりなのは繰り返される世界

しかし僕は間違っていないか

ルールというルールからはみだす

うんざりなのは飯が食えればそれで良い世界

うんざりなのは飯が食えればそれで良い世界

しかし僕は洗い物さえした事なくないか

ルールというルールからはみだす

海は生温く山は怒り大地は震え空には穴が開いている

世界は明日終わるのではないか

ノストラダムスの大予言の年　彼は十九歳だったが
焦って汗でエレキギターに感電し死んだ

僕は彼の友達だった

いや友達の友達だったか

お葬式は嫌だ
気が滅入る

彼は僕を気に入っていた
いや気に入られていたような気がする
戒名なんて嫌だ
死が老いる

逆さまだ

僕の考えている事は
人は生きる為に歩いているのではなく
人は歩く為に生きているのに

滅茶苦茶だ

僕の考えている事は
人は死に向かって進んでいるか？
それは僕が消えてしまいたい事と関連しているか？

答えなんて無い
意味なんて無い
束の間の幸福に焼付け
生まれてしまった事を精一杯享受しよう

泣かないと決めた日
口の中が強く渴き心臓が爆発しそうで
泣いても良いよと言ってくれるはずの
昔恋した彼女の電話番号を調べたりなんかしている

銃と刀 乱舞のスタックアート（前書き）

俺はアホだ！

銃と刀 乱舞のスタッカート

リアルへと踏み出す
硝子の階段だ
そろりそろりと進め
恐怖を殺せ

その下は
針 千本
落ちたら助からない
体中穴だらけ

氷河期を熱く熱く乗り越え
戦時中の緊張感で
目をこらしオモチヤの銃を構えよ
ここは食糧も水も自分で調達するジャングル

常に懐刀
心臓に突きつけ
プライドを傷つけられたら
平行に突き刺し自害するくらいの気概

モダンアートは全部嘘
ゴッホの様に耳を切り落とせ
狂気の向こうに見えるは
極彩色の天国

ニューロン限界突破
ICチップみたいに回路を張り巡らせ

パソコンと闘う

相手はどうせオセロみたいに黒と白

角を取れ

苛められっ子みたいに

追い詰められたボクサーみたいに

逃げ場が無くなればシックスセンスが働く

現代は若者が損する時代

お爺ちゃんの苦労話は

耳にたこ 闘志を失った

年金暮らしの馬鹿チンがTVでにやにや

話は聞くな

役人は自分の事しか考えていない

安定志向で家に帰れば立派な父だが

職場ではマイデスク守るのに余念が無い

それで弱い者が泣くんだ

家庭の幸福は諸悪の根源

日本という国が腐敗していく

気持ちの良いクスリが蔓延

どんな汚点も見逃すな

ヘビの様に喰らいついて

暴け 曝せ

裏切りのユダを探せ

笑っている奴の心の裏側には

べっとりヘドロがついてる

偽の笑顔に諭されて涙するほど
アホらしい事は無い

真実は夜中のベッドの中
汚らわしくも美しい
聖と乱の結合
ただ感じる

行いの正しさは小さなおせっかいで良い
マニフェスト掲げても
守れないなら
正義の旗じゃない

憂いの苦しさは大きなせかいでも良い
フェミニスト掲げても
貫けないなら
男気の旗じゃない

ただでっかい野望を抱いて
火の玉の様に燃え尽きる
もし生き急いでいると感じたら
ただ静かに時計の針を進めておこつ

それがリアル
歴史も生命も
それがリアル
自分の名を叫んで出陣

ロックオン ロックオン
硝煙の臭い 消炎

オモチャのピストルで良い
携えて銃声のスタッカート

ロックオン ロックオン

武士の魂 刀の鍔の突き合わし
オモチャの刀で良い

携えて闘剣のスタッカート

あの空に手が届くなら（前書き）

うーん。宇宙に想いを馳せてるのかな？

あの空に手が届くなら

あの空に手が届くなら

雲を掴んで自由に空を駆け巡りたい

青春群像劇

僕はあの頃確かに僕だった

青いお空にサッカーボールを蹴り上げ

落ちてくるまでの時間はそれは長かった

涙流れる

ありがたくて ありがたくて

冬の空は気まぐれで

有終の美を飾るように

さようなら

今日晴れてスッキリして

明日の予報は雨で鬱々として

気分やノリでその場をやり過ごしてきた気もする

あの空に手が届くなら
星を一つもぎとって
君にプレゼントしようか？

黒いお空にサッカーボールを蹴り上げ

落ちてくるまでの時間がそれは短かった

涙流れる

さみしくてさみしくて

夏の空は父さんの背中の様に広くて

有終の美を飾るように

また会おう

きつと僕らはいつも青春

秋が来るなんてありえないさ
憂愁

あの空に手が届くなら
あの空に手が届くなら
あの空でいつか暮らせるのなら
天の川にサラサラと流されたい

あい（前書き）

うざいあいつたたかいうちのめしたい

あい

愛 愛 愛 愛 愛 こんなに溢れてる
たくさん言葉達のダンス

タイトロープ 渡らないと
やっていけない リスクも必要だけど

愛 愛 愛 愛 都会の視界の合間
まだ見えないアイデア 高邁な精神で相對したい

でも別にマイスター 目指さないでもいいじゃない
街は既にN i g h t 休みたい

愛 愛 愛 愛 M y L i f e 当たらない占いみたい
無い物ねだりの恋かもしれない

まだ知らない光 ダイヤ 階段昇って
うかない顔してないで掴みたい思い期待

愛 愛 愛 愛 小さい社会のライブ
体力回復 戦いの合図

準備OK? 未体験 でかい旅
海賊王目指す 見えない仲間 出会いたい

あいあいあいあいきあいのひっぱりあい
てにいれたいせかいじゅうのざいほう それはあいしあいたい

僕らはきっとそう生きる意味なんて考えないでもいいんだ
愛があれば All right

妻（前書き）

NHKハート展に応募したい。

妻

あの人考え方が古いわね 頭が固くて 私が言つと
あら、それでも良い所あるのよ あの人
そう言つて笑うのはその人の妻だった

あの人殆ど喋らないわね ぶっきらぼう 私が言つと
しょうがないの 限界なのよ でもほら少し笑つて
そう言つて嬉しそうなのはその人の妻だった

あの人独り言が多いわね ちょっと気味が悪い 私が言つと
違ふのよ 猫に話し掛けているの 寂しいのよ
そう言つて泰然としているのはその人の妻だった

あの人同じ話が多いわね 退屈 私が言つと
自慢話が好きなの 四十七年勤め上げたから
そう言つて少し誇らしげなのはその人の妻だった

神を信じる事（前書き）

散文詩だからあんまり意味わからないかもなあ・・・。

神を信じる事

きれいなものばかりこの眼に映せたらなあ。

甘美な音ばかりこの耳に響かせられたらなあ。

幻惑に困惑するばかりの我が感覚。

焼身したいほどの傷心。

肉や魚を食べて僕らは作られてる。

だけど今や肉も魚も人間が創ってるじゃないか。

神を信じる事は殉じる事に繋がるのか。

誰もが救いを求めているわけじゃない。

だけどわずかながら助けを求めている人々に

神は手を差し伸ばしてくださるのか。

いや傍観者としてそこに存在しているからこそ

ありがたみがあるのか。まるで山の様に。

万物は科学的に生まれたかもしれない。自然発生的なものかもしれない。

それでも神への信仰は信用を信頼へと昇華させる力を持っているだろうか？

戦争もテロも終わらないじゃないか。

人が人を殺める事、それさえもヒロイズムになったり

信仰を金の為の道具としか思っていない人々がいるじゃないか。

終末が必ずしも悲しいとは限らないのに。

美しい世界を夢見ていたい。ずっと眠りたい。

朝焼けと夕焼けを間違えるくらいに

誘惑にワクワクするように

若かった頃の夢はもつと色鮮やかだった。

もうくすんでしまったけど

始まりはたった一人の男とたった一人の女だったんだ。

宇宙の様に果てがない。そんな物語があったらなあ。

これから二人で歩いていけるかなあ。

終わらない夢を見よう。

歳を取ることに神に近づいていくんだ。

恥ずかしさを忘れて赤ん坊に近づいていくんだ。

それは天国に行くためのパスポート。

ヴォイス（前書き）

いやー最近少し作風変えてるんですよ。結構真面目にやっています。

ヴォイス

ヴォイス

内なる声 まだ意識は清明ではない
体内の胎内
母の声が聞こえる

ヴォイス

外なる声 私は認知されている
営みがぼんやり感じられる
父の声も聞こえる

私は生まれる前から愛され

両親の希望

時折音楽が聞こえたり

揺り籠のように運動しているように思える

まくら闇だが怖さを感じない

宇宙のように呼吸が出来ないわけでもなく

生命のエネルギーは

供給されている

筒状のものの先に光が見えた

私は生まれる もうすぐ

第一の声 それは母だろうか

小鳥の原理 卵から人間になる

ヴォイス 前世の記憶

私は何度もこの体験をしているのかもしれない

第一の声 それは

生まれてきてくれてありがとう

父と母の顔を初めて見た

東京（前書き）

三十話で終わるんでもう少しお付き合い下さい。

東京

論理のロンリー 狂々色

染まるな メディアは真実を伝えてる
それで良いではないか

目も眩むメモリー 東京色

染まるな あの色はカクテル
きらびやかではないか

眠らない街も 酔いどれのゲロで
朝に変わる 夜光城 真紫な蝶蝶
あれがスタンダード？暴論だよ

田舎から出てきてみんな東京を愛し
お友達は議論を避けるようにネオン街に消えてく
まるでやっぱり学生の延長上

レベルは高いよ
最高学府しかり 永田町しかり
人を吸い寄せる魅力がある

しかしながら欲望の雪崩は
手練でもせき止められない
ブラックホールさ なだれこんでいく

金が動き 悪い心が育つ
これが東京だけってわけじゃないから
人間って不思議なのさ

東京 夢を求めて
選ばれた人間が集う街
選ばれた故郷 もう忘れたよ

最近泣かなくなったな
光化学スモッグくらいでしか
暗い闇の中でCry 最初の内だけ

明るく楽しく朗らかに
生きる希望を歌う人達
明日を生き抜く為に英気を養う人達

Wow Wow 競争社会の縮図
War War みんな頑張る
Ho-Ho 法律の中で

田舎から野菜が送られてきた
手紙には元気でやってるかいの文字
マンションでベランダ栽培してるから大丈夫さ

住めば都 この人の渦の中で
戻れない あの頃には
東京に憧れていたあの頃には

なんだか耳が悪くなったような気がするけど
なんだか声がかすれるような気がするけど
オーロラビジョンの中の女の子は笑っている

笑っている

交差点のど真ん中　もう立ち止まらない
肩がぶつかっても　謝らなくてもいいし
誰かが転んでも　手は差し伸べない

そんな僕を見て

オーロラビジョンの中の女の子は笑っている

笑っている　染まれよと言わんばかりに

ZOO（前書き）

これは完成形じゃないんだね。最終的には2000文字ぴったりに
でもってくつもり。それを3篇作ってコンテストに応募する。こ
れ目標。

時間がかかりそうなのでとりあえず載せる。

ZOO

イルカが輪っかをくぐっている
何という美しいフォルム

ご褒美の魚を美味しそうに頬張っている
イルカはとっても頭が良いんだ

人を救助した事もあるんだよ
お友達になれるんだ

彼、彼女達はテレパシーを使う
人間には聞こえないけど

でも心に響くって言うのかな
シンフォニア

イルカに乗った少年は
青空と水平線を見て地球は四角いと錯覚する
まあよくある事さ

ペンギンがトコトコ歩いている
何という可愛らしさ

小学生の遠足を思い出す
ペンギンは結構怖がり

別の言い方をすれば仲間意識が強いのかな
人間は頭を撫でたいなあという衝動に駆られるんだ
ふさふさしているのか ツルツルしているのか

不思議 寒くないのだろうか
大行進タッタタタ タッタタタ

みんな同じ顔だから名前をつけたいな

お前はペンイチ お前はペンサンとかね

ライオンがガオーと吼えている

雄雄しいたてがみ 美人な奥様

肉を食べるんだってね

動物園では不自由だろう

走り回れないから

ストレスで体を壊してしまうかも

百獣の王っていうくらいだから強いのかな

サバンナでは一番強いのだろうね

ハイエナがいないから

生きたままの血の滴るステーキはここではお預け

血の臭いを忘れた子ライオンは互いを引っ掻きあつて

野生の血を忘れない様に努めてる

クマさんも結構強いよ

ライオンとどっちが強いだろう

金太郎と桃太郎を比べるみたいなものだけど

クマさんもボスがちゃんとして

社会を作り上げているんだね

人を襲う事もあるから肉食獣は檻の中

何も悪い事する前から

ちよっと可哀相だね

つばさ(前書き)

平仮名ばかりで読みづれえ。

つばさ

ある日ぼくのせなかにつばさはえた

ぼくはびっくりしてへやにあるかがみを

えい、えい、と首がもぎれるくらいふりむき　ふりむき

ながめてみた　つばさだ

ぼくはおとうさんとおかあさんにほっこくしなくてはと

おもつがふわふわういていてかいだんをおりるのに

あたまとあしの親ゆび　一指しゆび　中ゆび　薬ゆび　小ゆび

をぎゃくてんさせなければならなかった

「ねえ　つばさはえたよ」

「あらよかったわね」

「すごいじゃないか」

よし　がつこうまでとんでいこう

とちゅう好奇の視線を感じた

学校で

友達達は変な物を見るような目つきで

お前何おもちゃつけてるんだよといいながら

つばさを引つ張った

いたかった かなしかった つばさなんかはえなければよかったのに

するときのうまでつばさのはえていなかった学級委員長の女の子が

じょうはんしんはだかでぶくよりりっぱなくろいはねをはやしていた

「やめなさいよ」そういつてぶくをかばってくれた

ばくはかのじょをだきしめたくおもった

帰りふたりでぶくの家までとんでいつておたがいのつばさを

なであつこした そしてけっこんのやくそくをした

ねえてんしのくちどめって知ってる？

前世のきおくを風韻^{ふういん}するはなのしたのみぞ？

わたしそれがないの おしゃべりしちやおうかな

.....

数年後ふたりはきょうかいでけっこんをした

こどもには羽がはえていなかった

ぼくたちは話した この子が大人になるときには

もったたくさんひとたちにつばさはえるだろう

きつと、そうだったらいいね ふたりはキスをした

桜（前書き）

生まれてから一回も桜を見た記憶が無い。 （記憶喪失？）

桜

桃色の

桜吹雪が

散っていく

教科書

最後のページ

落書きの

パラパラ漫画

終わる時

ふと思い出す

去年の春

一年か

長かったようで

短いな

今年も咲いた

笑顔が咲いた

つまんない

恋する君へ

手紙など

書きしたためて

捨てる何度も

こんな文

君が恋しい

僕なりに

愛してみせる
神に誓つて

くさいなあ

もつと書き方

あるだろに

君の前では

いい子ぶりたい

マイヘブン

そこにあるのか

階段と

開かないドア

永遠の虹

グラウンド

独り占めして

いとおいしい

君へ伝える

石灰撒いて

アイラブU

君だけの事を

本当さ

震える心

恋の病ね

春だから

別れが怖い

ピュアラブ

桜吹雪が
舞い散る音が

聞こえた

「被災した方々を応援しております。」（前書き）

いつか笑える日が来るといいね。

「被災した方々を応援しております。」

ご冥福をお祈りしますとか
お悔やみ申し上げますとか
僕たち生き残った人間は言うけれど

無念、一言言ってくれないか

私達は天国にも地獄にももういないし
声も届かない

私達は運命さだめというにはあまりにも
突然に命を奪われ 打ち明けたかった「ありがとう」
も言えずバイバイ

神も仏もありやせんわ

ご遺体がきれいにきれいに
涙美しくその頬に雫となって
こぼれますように 願えど 無残

壊れた家に戻って今までの苦勞が
本当に水の泡 悔しくて地面を拳で殴る

生き残った僕たちは家族を守るのに精一杯なのに
人を支え救おうという気持ちをやまない
それは人間という生き物の性かもしれない

お年寄りや赤ちゃんを何とか先に助けて下さいと
命の大切さを知る人は言う
自分の事はいい あなたこそ大変でしょう
どこまでお人好しなんだ！

寄り添って体温を分け合う
区分なんて物 そこには無い
一つのパンを分け合うのではなく
あなたどうぞ等とある人は唾を飲み込み
水で飢えをしのぐ

笑顔で暮らしていける日常
ぶっ壊されたけど
でも立ち上がっていつか
元の暮らしを取り戻す為に
頑張っている途中

呆然としてしまう
先が見えない戦いだ
今は目の前の事で精一杯だろう
どうか死んだ人の分まで生きて下さい

死んだ私達の為に、無念、一言言ってくれないか
私達は天国にも地獄にももういないし
声も届かない
私達は運命さだめというにはあまりにも
突然に命を奪われ 打ち明けたかった「ありがとう」
も言えずバイバイ

水の中 怖かったよ 押し潰されて 痛かったよ
でもいなくなった人達の事は今は忘れて
それで いいよ
助かった人におめでとうと死んだ私達には言う権利があるよね？

たましいが成仏しますようにと祈って下さい
たましいが成仏しますようにと祈って下さい

その時言えなかった「ありがとう」が言える気がするの
その時いつも言っていた「ただいま」が言える気がするの

そんな気がするの

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9523o/>

パソコンのゴミ箱2(携帯からも読めるよ)

2011年10月6日06時10分発行